

# 地質標本館での日本人名由来鉱物の展示（補遺）

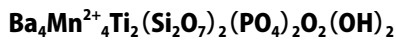
佐脇 貴幸<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

佐脇（2021）では、産業技術総合研究所の地質標本館に展示している、日本人名由来の鉱物について記しましたが、吉村石（佐脇，2021，第1表 通番76）に関して漏れていましたので、補遺として紹介いたします。

## 2. 日本人名由来の鉱物の展示

### 2.1 吉村石 (Yoshimuraite) よしむらせき



模式地：岩手県九戸郡野田村野田玉川鉱山

産状・特徴：吉村石は、1961年に、野田玉川鉱山から報告されました（第1図）。吉村石は、板状の茶色い鉱物として、バリウム (Ba) を含むカリ長石，石英，リヒター（リヒテル）閃石 (Richterite)，ウルバン輝石 (Urbanite)；ただし現在の分類では普通輝石もしくはエジル普通輝石：



第1図 吉村石（黄色丸内の矢印の先）を含む標本

IMA, 1988), バラ輝石 (Rhodonite) からなるペグマタイト中に産します。見かけは星葉石 (Astrophyllite) に似ていましたが、化学的・物理的特性の違いから新鉱物としての発見に至ったとのこと。佐脇 (2021) にも報告したとおり、野田玉川鉱山はマンガン鉱山として有名で、原田石、木下雲母などの新鉱物が報告されたことでも有名です。**鉱物名の由来**：吉村石は、吉村豊文九州大学名誉教授 (1905–1990) の、鉱物学・鉱床学における数々の業績を讃えて命名されました。

第一文献：Watanabe *et al.* (1961)

展示場所：地質標本館第4展示室

## 3. おわりに

本原稿の投稿翌日 (2021年10月1日) から、茨城県下に出されていた COVID-19 に対する緊急事態宣言が解除され、地質標本館も8月初旬からの長い臨時休館から再開館することになりました。まだまだ予断を許さない状況とはいえ、感染対策をしっかり行い、再び皆さんが地質学を楽しく学べるよう職員が準備いたしております。つくばを訪れる機会があれば、ぜひ地質標本館をご見学ください。

## 文 献

IMA (Subcommittee on Pyroxenes, N. Morimoto, Chairman) (1988) Nomenclature of pyroxenes. *Mineralogical Magazine*, 52, 535–550.

佐脇貴幸 (2021) 地質標本館での日本人名由来鉱物の展示. GSI 地質ニュース, 10, 179–193.

Watanabe, T., Takéuchi, Y. and Ito, J. (1961) The minerals of the Noda-Tamagawa mine, Iwate Prefecture, Japan. III. Yoshimuraite, a new barium-titanium-manganese silicate mineral. *Mineralogical Journal*, 3, 156–167.

SAWAKI Takayuki (2021) Minerals after Japanese researchers' names exhibited in the Geological Museum (supplement).

(受付：2021年9月30日)

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター

キーワード：鉱物名，日本人名，IMA，地質標本館，展示標本